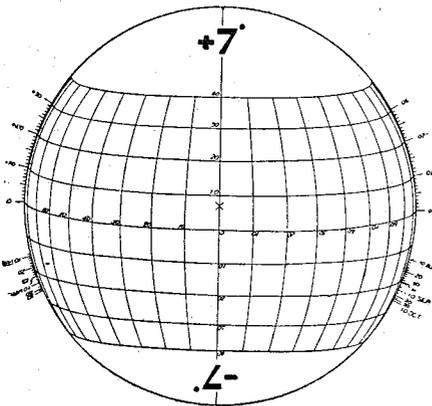


太陽黒點の近況

太陽の黒點活動は今や其の第30列を終らんとしてゐる。長野縣の（故）三澤勝衛氏が黒點の觀測を開始した1921年から滿20ケ年、この間に黒點活動は極大期を2回と、極小期を2回現はし、愈々1943—4年頃に第3回の極小期を迎へんとしてゐる。従つて、昨今の太陽面は比較的靜穩で、各黒點の緯度も低くなつて來た。しかし、一帯に不規則な黒點のことであるから、何時大黒點が突發しないとも限らない。現に去る九月21日の皆既日蝕が起つた日の前後から、稀に見る大黒點が太陽面の北半球に出現し、世界の到る所にオロロラや、磁氣嵐や、電波異常を起したりしたこともあつたのだから、今後とても豫斷は出來ない。



ここに三澤氏の觀測による黒點の相對數の曲線と、其れに續く木邊成慶氏の曲線を示し、尙ほ之れに加へて、大石辰次氏の曲線をも示す。但し、圖の重複を避けるため、木邊氏の曲線は尺度を若干移動した。



太陽面上の經緯度

眼には見えないけれど、太陽の表面には左圖の如く經緯度が書かれてあると考へ、之れによつて、黒點の位置を精密に表はす。（圖は8枚1組で、本會で發行してゐる。）此の主軸線の位置はP、B、L。として本誌の各月天文カレンダーに掲げてある。